

京都・山科区●あきらめないがん治療

統合医療と腹腔内がん治療

医療法人社団 貴正会

村上内科医院 院長 村上正志 医学博士

高齢化社会になり、年々がんになる人が増えている。

これに対して、統合医療により副作用の少ないがん治療をめざしている医師が、今回がん末期でホスピスを勧められた人でも体に負担の少ない腹腔内がん治療（胸腔内がん治療）を提案している。腹腔治療は少しずつ全国より治療と相談に応じている。

キーワードは、活性酸素、アンチオキシダント（抗酸化物）がん性腹膜炎、腹腔内がん治療（胸腔内がん治療）である。



●PROFILE 村上正志（ムラカミ・マサシ）
京都府立医科大学卒業 ■
元京都府立医科大学客員講師。
統合医療、抗加齢医療、点滴療法、
ハイパーサーミア（温熱治療）等、
幅広い視点から、がん治療に取り組んでいる。

がん治療で成功するには

がんになると一般的に外科手術、抗がん剤治療、放射線治療の3大治療が基本です。

このがん治療をするにあたり、患者がすぐにすべき重要なことが2つあります。

まず、がんの重大な原因のひとつの活性酸素を少しでも減らし、体を少しでもベストの状態にすることがです。抗酸化物（ビタミンC、E等）を摂取したり、点滴で投与したり色々な方法で抗酸化力を増強することです。

2つ目は、がんと戦う体内の免疫力を増やすことです。それには免疫力を増やす食事、栄養、温熱療法、自律神経療法、免疫療法等色々な免疫増強法があります。

以上の方法は統合医療的に誰でもすべき重要な事です。

がん性腹膜炎で治療法がないと言われても

腹腔内の色々ながんの進行で、がん性腹膜炎になります。腹水が増加してくると、急速に体力が低下し、寝たきりになります。さらに、腸閉塞、黄疸等がおこると、命も危険な状態になります。

腹水を取ってもすぐたまり、逆に体力を消耗するだけです。

そこで今回私がお勧めの腹腔内がん治療は、腹腔内に直接薬を注入することで、がんの増殖を強くおさえ、腹水がたまらなくなると全身状態が急速に良くなります。

それだけで十分な延命効果を期待できます。体力がけば今までの病院でまた抗がん剤治療や手術が可能になる事も期待できます。

腹腔内治療をするには、腹腔ポルトを留置しなければいけません。この手技は全部保険適応です。

しかし、腹腔内治療で注入する薬剤等は保険外治療です。薬は血管内点滴よりずっと少量で効果があり、副作用も少なく、90才の方でも治療しています。

抗がん剤に抵抗のある人、又は効果が無かった人は遺伝子治療という方法もあります。

本院は、大阪市東成区の朋愛病院の田中先生と近隣の病院の協力のもと、数年前より腹腔内がん治療を本格的に取り組んでおり、ほとんどの方に効果をみています。



コロナ禍においても万全の診療体制を整えている

本院は末期のがん性腹膜炎の方の延命効果だけでなく、短期間で社会生活ができる様にスタッフ一同、日々努力をしています。

医療法人社団 貴正会

村上内科医院

<https://murakaminaika.com/>

※点滴療法（自由診療）は完全予約制となります。

所在地◆京都府京都市山科区四ノ宮垣ノ内町1

電話◆075-501-2551

治療についてのお問い合わせ

075-591-4722（本部）